



Vol.3 紅葉坂 プロジェクト

TICKET [全席自由・税込]

一般 2,000円 シルバー(65歳以上) 1,500円 U24(24歳以下) 1,000円
 高校生以下 無料(要事前予約) 車椅子席 2,000円(付添席1名無料)
 一般発売 5月18日(土) KAme(かながわメンバーズ)会員先行 5月17日(金)

*シルバー、U24、高校生以下、車椅子(付添)はチケットかながわのみで取り扱い。
 要事前予約。引き取り方法により手数料がかかります。
 *未就学児の入場はご遠慮ください。[有料託児サービスあり(下段参照)]
 *一部速報にて、「全席指定」と記載されたものがありますが、「全席自由」の誤りです。
 お詫びして訂正いたします。

チケットかながわ 0570-015-415 (10:00~18:00)

<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

窓口 | 神奈川県立音楽堂 (13:00~17:00 月曜日)

神奈川県民ホール/KAAT神奈川芸術劇場 (10:00~18:00)

営業日、時間を変更する場合があります。

事前にお電話、WEB等でご確認ください。

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード:270-454]

イープラス <https://eplus.jp/>

ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード:33401]

詳細は、紅葉坂プロジェクト特設サイトへ!



木のホール

神奈川県立音楽堂

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 TEL 045-263-2567

<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

- JR「桜木町」駅(南改札西口、北改札西口)・市営地下鉄「桜木町」駅(南1番出口)から徒歩10分
- 京浜急行「日ノ出町」駅から徒歩13分
- みなとみらい線「みなとみらい」駅から徒歩20分

[開場・開演前にJR桜木町駅からの無料シャトルバス運行]

7/20(土) 出発時間 ①14:05 ②14:35 [運賃無料/予約不要/当日先着順]

- タクシー降車場奥「貸切バスのりば」より発車
- 「神奈川県立音楽堂」掲示があるバスです

[託児サービスあり] (有料・チケット発売日~公演1週間前までに要事前予約)

(お問い合わせ・申込先)

株式会社明日香 TEL 0120-165-115 (土日祝日を除く10:00~17:00)

予約フォーム <https://ws.formzu.net/dist/S73871289/>

※やむを得ない事情により、公演内容に変更が生じる場合があります。

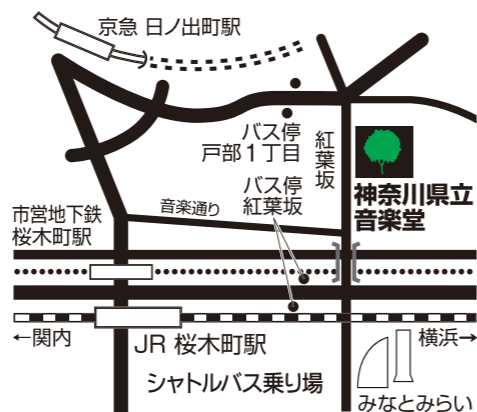


写真:ヒダキトモコ

神奈川県立音楽堂
@Kana_Ongakudo

開館70周年記念/シリーズ「新しい視点」

2024年7月20日(土)

14:15開場/15:00開始

Series "New Perspective" Momijizaka Project Vol.3

Saturday, 20th July 2024, 3:00 p.m.

Kanagawa Prefectural Music Hall

Vol.3 紅葉坂 プロジェクト

小倉美春&上條晃
おんがくが「ぬ」とであふとき
古代語の「ぬ」を徹底的に味わい尽くし、音楽へと昇華する

マキシマム(磯部英彬、星谷丈生)
マキシマム電子合唱団
楽器演奏のエキスパートたちが、創作楽器とエレクトロニクスを
操り・歌い・生み出す新しいサウンド



木のホール

神奈川県立音楽堂

70th
音が歴史を
刻んで70年

シリーズ
新しい
視点
Series
New Perspective

MOMIJIZAKA
PROJECT

主催:神奈川県立音楽堂(指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

NOMURA 野村財団

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

文芸春秋

MAC
CUL
CUL

Vol.3 紅葉坂 プロジェクト

音楽家が発信する表現のあり方とは？

歴史ある音楽堂の空間で
聴衆がいに新しい音楽と出会うか？
双方の可能性を広げる企画公募プログラム
「紅葉坂プロジェクト」。

音楽堂開館70周年の
記念すべきVol.3に向けた応募企画の中から、
企画委員によって選ばれた2つの企画をご紹介します。

現代音楽が変わる瞬間を目撃せよ

紅葉坂プロジェクトの大きな特色は、事前に「ワークインプログレス」と題された、いわば「中間発表」があること。なにしろ実験的な企画ばかりだから、実際に目にするまで、選んだ側もドキドキというのが正直なところなのだ。

果たして、今年の「中間発表」は大いに盛り上がった。まずは「おんがくが『ぬ』とであふとき」。上條晃のどこか朴訥とした喋りと、超鋭い切れ味でピアノを奏でる小倉美春の mismatch が、まずはそこはかとなく面白い。そもそも国語学者と音楽家のコラボレーションというのは過去に前例がないのでは？ 当日の議論で焦点があてられたのは、最終的に「ぬ」をどうやって音楽化するのか、という難問。この二人のことだから、奇抜な方法でハードルを越えてくるにちがいない。

続く「マキシマム」も、どこかおとぼけ的な空気が漂う点ではよく似ているが、こちらは手作りデバイスを駆使して、不思議な音空間を作り出そうというところ。たとえば磯部英彬の制作による「Isobe-Rail」は、ピンと張られたロープの下に、ロープウェイのような仕組みでスピーカーが吊るされており（かなり素早く動く）、空間音像を作り出す仕掛け。アナログとデジタルの妙な混合が最高だ。本公演ではこれにくわえたさまざまなデバイスが、星谷丈生や「マキシマム合唱団」という謎の軍団と共演するというのだから、今からわくわくしてしまう。

この2組が存分に暴れるとき、現代音楽の世界は変わる。危険きわまりない本公演にあなたもぜひ参加してほしい。

沼野雄司

(紅葉坂プロジェクトVol.3企画委員長／神奈川県民ホール・音楽堂芸術参与)

【企画委員】



委員長 沼野雄司
音楽学者
神奈川県民ホール・
音楽堂芸術参与



委員 濱田芳通
古楽アンサンブル
《アントネッロ》主宰
指揮、リコーダー、コルネット



委員 湯山玲子
著述家
プロデューサー
おしゃべりカルチャーモンスター

小倉美春&上條晃 おんがくが「ぬ」とであふとき

「風立ちぬ」に代表される古代語の「ぬ」。日常生活では使われなくなってしまったこの言葉が持つ、さまざまな息づかいを作曲で拘り企画です。「ぬ」の回転そのものが遊んでいるような新作弦楽トリオ、「ぬ」の付く言葉たちが殆ど聞き取れない速さで駆け抜けていく声のための即興的新作、「ぬ」が本来持っていたゆったりとした流れを想起こそす《Zerfließen...》、「ぬ」が「ぬ」になるまでの経過を追随するような「ぬ」についての考察I。そこに、音象徴としての「ぬ」、身振りとしての「ぬ」をも交えた舞台作品を、一流の演奏家陣とともにお届けします。「ぬ」から力を得た音楽が、「ぬ」へと還っていくきっかけになればと思います。

おんがくが「ぬ」とであふとき

【演奏曲目】

小倉美春:短く速くくり:3声のための新作(2024,世界初演)

入りまじるくり:弦楽三重奏のための新作(2024,世界初演)

ゆつくりとながいくくり:Zerfließen...
アコーディオンとクラリネットのための(2022,日本初演)

短くもながいくくり:「ぬ」についての考察I
ソプラノ、アルト、テノール、クラリネット、ヴィオラ、トロンボーンのための(2023,世界初演)

【出演】

ソプラノ:薬師寺典子、溝淵加奈枝 テノール:金沢青児 ヴァイオリン:河村絢音
ヴィオラ:河相美帆 チェロ:山澤慧 クラリネット:片山貴裕 トロンボーン:
直井紀和 アコーディオン:大田智美 指揮:金井俊文

【スタッフ】

後藤天(映像)



小倉美春
Miharu Ogura

上條晃
Akira Kamijo

ドイツ・フランクフルトを拠点とするピアニスト・作曲家、2023年メシアン国際ピアノコンクールにて第2位・メシアン作品最優秀演奏賞を受賞するなど、ピアノと作曲の両方で入賞多数。ラジオ・フランス及びヴェネツィア・ビエンナーレなどから委嘱を受ける。2023年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

東京音楽大学付属高等学校国語科教諭。歌人。東京外国語大学外国語学部(ドイツ語専攻)、同大学院地域文化研究科修了。研究課題は一般教科と音楽の架橋。「古代語の「ぬ」と演奏」—東京音楽大学付属高等学校における国語教育の試みと展望 II—(東京音楽大学研究紀要第46集)。短歌を馬場あき子に師事。



マキシマム電子合唱団

【演奏曲目】

星谷丈生:電子合唱団と複数の楽器のための《菩提樹の詩》

磯部英彬:電子合唱団と複数の楽器のための《幸せの缶詰》

【出演】

合唱:亀井庸州(尺八、ヴァイオリン)、多井智紀(楽具)、近藤圭(ホルン)、菊地秀夫(クラリネット)、今井貴子(フルート)、高瀬真吾(打楽器)、迫田圭(ヴァイオリン)、星谷丈生、磯部英彬(エレクトロニクス)ほか

【スタッフ】

上原永美(舞台美術)、秋山大知(映像、電子デバイス制作)



マキシマム(磯部英彬、星谷丈生)
Maximum

マキシマムは、作曲家、楽器製作者である磯部英彬が主催するエレクトロニクスとアコースティック楽器による可能性を探究する団体です。新しい楽器を発明、または既存楽器を改良してこれまで計8回のコンサートを開催し、様々な音楽家との協働作業を行ってきました。近年は、作曲家 星谷丈生とともにIsobe-RailやHoshiya-Boardなどを開発。また2023年8月から学校教育向けのICT活用セミナーも行っています。

マキシマム(磯部英彬、星谷丈生) マキシマム電子合唱団

マキシマム電子合唱団は、独自に開発した様々な楽器を操りながら演奏する声とエレクトロニクス、生楽器が融合した新しいタイプの合唱団です。合唱メンバーは、様々な楽器演奏のエキスパート達で構成され、歌と楽器を交互に演奏し、発声は地声を重視した新しい表現を探究します。合唱団に登場する新しい楽器には、まるで演奏者から音が出ているかのようなウェアラブルガジェットや、特殊音律リアルタイム音程可変装置Isobe-Tune、指向性スピーカーIsobe-Shot、その他様々な特殊スピーカーなどがあり、それらを用いて合唱と生楽器とエレクトロニクスから生まれる人間の創造力と現代の最新技術を融合させた公演を行います。